

子どもの 救急時の対応



保健医療センター

はじめに

子どもは親にとってかけがえのないものであり、社会にとっても次の時代を担う大切な宝です。子どもは、成長していく過程で、さまざまな病気にかかったり、ケガをしたりするものですが、お父さんやお母さんは、心配のあまりあわててしまうことがあります。

特に、日曜日・祝日・夜間など、診療所や病院がお休みの時に、急にお子さんの具合が悪くなったらどうすればよいのか、迷うことがあると思います。ここでは、子どもによくある病気や症状について、「すぐに救急医療機関に行くべきか？明日まで待つべきか？」について、おおよその目安をまとめました。いつもと何か様子が違う時、急に具合が悪くなった時などに役立てていただければと思います。

もくじ

はじめに.....	1
相談窓口.....	2
1．気になる症状なども相談窓口.....	2
1．中毒に関する相談窓口.....	2
お医者さんのかかり方.....	3
1．上手なお医者さんのかかり方.....	3
2．かかりつけ医をもちましょう.....	3
救急車の利用の仕方.....	4
1．救急車の利用について.....	4
2．救急車の呼び方.....	4
子どもの気になる症状.....	5
1．熱がでた.....	5
2．けいれん（ひきつけ）を起こした.....	6
4．吐いた時.....	8
5．お腹が痛い.....	9
6．下痢をした.....	10
7．泣き止まない（泣きかたが気になる）.....	10
子どもの事故やけが.....	11
1．頭を強く打った.....	11
2．やけどをした.....	12
3．切り傷・刺し傷.....	12
4．動物にかまれた.....	13
5．指をはさんだ.....	13
6．誤飲.....	14
子どもの事故防止.....	15
最後に.....	16

相談窓口

1. 気になる症状などの相談窓口

かながわ小児救急ダイヤル（神奈川県）

看護師などが電話で相談に応じます。

- ・ 相談時間：毎日 18:00～22:00
- ・ 電話番号：#8000（プッシュ回線・ISDN 回線）
横浜 045 - 722 - 8000（ダイヤル回線、携帯電話、IP 電話）

オンラインこどもの救急（社団法人 日本小児科学会）

ホームページ上で確認できます。

- ・ アドレス：<http://kodomo-qq.jp/>

2. 中毒に関する相談窓口

神奈川県医師会中毒情報相談室

- ・ 相談時間：毎日 24 時間対応
- ・ 電話番号：045-262-4199

(財)日本中毒相談センター

大阪中毒 110 番

- ・ 相談時間：毎日 24 時間対応
- ・ 電話番号：072-727-2499

つくば中毒 110 番

- ・ 相談時間：毎日 9 時～21 時
- ・ 電話番号：029-852-9999

薬物情報電話サービス(神奈川県薬務課薬事・安全情報班)

- ・ 相談時間：平日 8:30～17:00
- ・ 電話番号：045-210-1111

たばこ誤飲事故専用電話(テープによる情報提供)

- ・ 相談時間：毎日 24 時間
- ・ 電話番号：072-726-9922

化粧品や医薬品、タバコなどを誤って口に入れた場合の対処の方法の相談窓口です。異物誤飲や食中毒、慢性の中毒の相談には応じていません。

お医者さんのかかり方

1. 上手なお医者さんのかかり方

できるだけ通常の診療時間内に受診しましょう。

診療室で尋ねられることをあらかじめ整理しておきましょう。

- ・気になる症状はどんなことですか？
- ・その症状はいつからありますか？（何時ごろから、1日何回くらいなど）
- ・今までに大きな病気にかかったことがありますか？
- ・薬や食べ物にアレルギーがありますか？
- ・家族にも同じような症状がありますか？

お子さんの症状や様子の分かる人が一緒に行きましょう。

必ず持っていくもの

- ・保険証
- ・小児医療証
- ・お金
- ・母子手帳
- ・診察券（お持ちの方）
- ・おくすり手帳（飲んでいる薬や薬の名前が分かるもの）

2. かかりつけ医を持ちましょう

かかりつけ医とは、いつも診察してもらっているお医者さんのことです。
具合が悪くなったら、早めに「かかりつけ医」に診てもらいましょう。

医療機関名：

電話番号：

診療日：

診療時間：

診察券番号：

その他：

救急車の利用の仕方

1. 救急車の利用について

こんな時は救急車を利用してください。

- ・意識がないとき
- ・けいれんが止まらないとき
- ・呼吸が困難になっているとき
- ・出血が激しく止まらないとき
- ・広範囲のやけどのとき など

救急車はタクシーではありません。
救急車の適正利用にご協力をお願いいたします。



2. 救急車の呼び方

救急車の呼び方

- (1) 119にダイヤルする。
- (2) 落ち着いてはっきりと、そして簡潔に答えましょう。

- | | |
|---------------|---------------------------|
| ・火事ですか、救急ですか？ | 救急です。 |
| ・どうしましたか？ | けいれんが止まりません。 |
| ・住所と名前は？ | 綾瀬市 1 - 1 - 1、
綾瀬太郎です。 |
| ・電話番号は？ | 77 - (携帯も可) です。 |
| ・目標になるものは？ | 近くに 会社があります。 |

子どもの気になる症状

問い合わせ・電話相談（P2 参照）

かながわ小児救急ダイヤル

#8000（毎日 18:00～22:00）

1. 熱がでた

観察のポイント

- ・ わきの下の汗を拭いてから体温を測りましょう。
- ・ 子どもは夕方から夜にかけて発熱することが多いものです。発熱以外の症状もよく観察して対処しましょう。
- ・ 入浴、哺乳、食事の直後や泣いたり、運動したあとは体温が高めになりますので、静かにしているときに測りましょう。
- ・ 乳幼児は大人に比べて体温が高く、平熱でも37.5℃を超えることがあります。

様子をみても大丈夫な場合（通常の診療時間内に受診しましょう）

- ・ 水分や食事がとれている。
- ・ 熱があっても普通に睡眠がとれる。
- ・ あやせば笑う、遊ぼうとする。
- ・それほど機嫌が悪くない、顔色も悪くない。

救急外来を受診した方がよい場合

- ・ 生後3か月以下の赤ちゃんで、38.5℃以上の熱があるか、機嫌が悪い。
- ・ 元気がなく、ぐったりしている。
- ・ 水分をほとんど飲まない。
- ・ おしっこが半日くらい出ない。
- ・ 眠ってばかりいる（呼びかけてもすぐに眠ってしまう）。

問い合わせ・電話相談（P2 参照）

かながわ小児救急ダイヤル

#8000（毎日 18:00～22:00）

2. けいれん(ひきつけ)を起こした

観察のポイント

- ・ 短いけいれんなら、命にかかわることはめったにありません。落ち着いて始まった時間の確認、熱を測り、お子さんの様子をよく見てください。熱の有無や、持続時間、けいれんの様子が診察の役に立ちます。
- ・ けいれん中はゆすったり、刺激をしないようにしましょう。

様子をみても大丈夫な場合（通常の診療時間内に受診しましょう）

- ・ けいれんが1回だけで、5分以内に止まり、目を開けて周囲の呼びかけに反応したり、泣いたりした。

救急外来を受診した方が良い場合

- ・ 生まれて初めてけいれんを起こした。
- ・ 生後6か月未満でけいれんを起こした。
- ・ けいれんが5分以上続いた。
- ・ けいれんが治まったが、意識がはっきりしない。
- ・ 半日に2回以上けいれんが起きた。
- ・ 熱がないのにけいれんが起きた。

3. せき・ぜいぜいする

問い合わせ・電話相談 (P2 参照)
かながわ小児救急ダイヤル
#8000 (毎日 18:00 ~ 22:00)

観察のポイント

- ・ せきは、かぜや気管支炎など病気が原因のものと、異物などが入り込んで起きるものがあります。急に激しくせき込んだ時は口の中を見てみましょう。異物(ピーナッツやおもちゃのかけらなど)があるかもしれません。

様子をもても大丈夫な場合 (通常の診療時間内に受診しましょう)

- ・ のどが「ゼイゼイ」「ヒューーヒューー」になっているが、苦しくなる様子がなく、横になって眠っていられる。
- ・ 眠りかけや朝起きた時、走った時にせきが出るが、機嫌が良く、ほかに気になる症状がない。
- ・ 熱がなく、睡眠、食事、運動がいつもと変わらない。

救急外来を受診した方がよい場合

- ・ せき込みが激しく、肋骨の間がへこむなど呼吸困難の兆候が見られる。
- ・ 呼吸困難のため、横になれない、苦しくて動けない。
- ・ 犬の遠吠えやオットセイの鳴き声のような咳き込みをしている。
- ・ 口の周りや唇が紫色になる (チアノーゼ)。

問い合わせ・電話相談（P2 参照）

かながわ小児救急ダイヤル

8000（毎日 18:00～22:00）

4. 吐いた（嘔吐）

観察のポイント

- ・ 何回嘔吐したか、腹痛・頭痛があるか、機嫌はどうか、食欲はあるか、熱・下痢がないか観察しましょう。

様子を見ても大丈夫な場合（通常の診療時間内に受診しましょう）

- ・ 吐き気が治まったあと、水分が飲める。
- ・ 下痢、発熱など、嘔吐以外の症状がない。

救急外来を受診した方がよい場合

- ・ 一日のうちに嘔吐と下痢を何度も繰り返している。
- ・ 吐いたものに血液や胆汁（緑色）が混じる。
- ・ おしっこが半日くらい出ない。
- ・ 水分がとれず、ぐったりしている。
- ・ 10分～30分おきに腹痛を繰り返し（激しく泣く）、イチゴジャム状の便や、血のかたまりのような便が出る。
- ・ ひどい腹痛や強い頭痛を訴える。
- ・ 意識がぼんやりしていて、呼びかけに反応しない。

5. お腹が痛い

問い合わせ・電話相談 (P2 参照)
かながわ小児救急ダイヤル
#8000 (毎日 18:00 ~ 22:00)

観察のポイント

- ・ 熱、吐き気、下痢がないか、お腹を抱え込むように痛がらないかなど観察しましょう。
- ・ お腹が張っていないか、全体的にさわってみましょう。
- ・ 赤ちゃんがわけもなく繰り返し泣くときは、お腹が痛い可能性があります。

様子をもても大丈夫な場合 (通常の診療時間内に受診しましょう)

- ・ すぐに機嫌がよくなり、いつもとかわらない。
- ・ 排便をすると治まって、他に症状がない。

救急外来を受診した方がよい場合

- ・ お腹をかがめて痛がる。
- ・ お腹を触ると痛がる。
- ・ 陰のうが腫れている、股のつけねが腫れている。
- ・ 赤ちゃんが足を縮めて激しく泣いたり、間隔をおいて発作的に泣く。
- ・ 10分 ~ 30分おきに腹痛を繰り返し (激しく泣く) イチゴジャム状の便や、血のかたまりのような便が出る。
- ・ 血尿が出る。

6. 下痢をした

問い合わせ・電話相談（P2 参照）
かながわ小児救急ダイヤル
#8000（毎日 18:00～22:00）

観察のポイント

- ・ いつもの便と違う点をよく観察する（におい、性状、1日の回数）。
- ・ 吐き気、嘔吐、腹痛、食欲、発熱、発疹等がないかよく観察しましょう。

様子を見ても大丈夫な場合（通常の診療時間内に受診しましょう）

- ・ 回数が1日5回以内で、おしっこが普段と変わりなく出ている。
- ・ 食欲が普段と変わらず、水分がとれている。
- ・ 熱がなく、機嫌もよく元気になっている。

救急外来を受診した方が良い場合

- ・ 高熱や繰り返し嘔吐がある。
- ・ 機嫌が悪く水分をほとんど飲まない。
- ・ おしっこが半日くらい出ない。
- ・ 唇や口の中が乾燥している。
- ・ 元気がなくグッタリしている。
- ・ 白っぽい便、イチゴジャム状の便や、血のかたまりのような便、のりのような黒っぽい便が出る。

7. 泣き止まない（泣きかたが気になる）

問い合わせ・電話相談（P2 参照）
かながわ小児救急ダイヤル
#8000（毎日 18:00～22:00）

様子を見ても大丈夫な場合（通常の診療時間内に受診しましょう）

- ・ 全身を観察して泣きかた以外いつもと変わらない。

救急外来を受診した方が良い場合

- ・ 生後3か月以下の赤ちゃんで、38度以上の熱があるか、機嫌が悪い。
- ・ 弱々しい泣き方で元気がなくグッタリしている。
- ・ 10分～30分おきに激しく泣き、イチゴジャム状の便や、血のかたまりのような便が出る。
- ・ 陰のうが腫れている、股のつけねが腫れている。

子どもの事故やけが

1. 頭を強く打った

問い合わせ・電話相談（P2 参照）
かながわ小児救急ダイヤル
#8000（毎日 18:00～22:00）

赤ちゃんや子どもは体のわりに頭が大きいので、頭を打つことはよくあります。泣いたあと元気にしていればほとんどの場合問題ありませんが、後から症状が出ることもまれにあるので、3日間くらいは子どもの様子をよく観察しましょう。

様子をみても大丈夫な場合（通常の診療時間内に受診しましょう）

- ・ 頭を打った直後は激しく泣くが、泣きやんだ後はいつもどおり元気になっている。

応急手当

こぶができていたら冷やしましょう。

傷がある時は消毒や止血をしましょう。

救急外来を受診した方が良い場合

頭を打った直後

- ・ 意識がない。
- ・ 頭を打った直後に全く泣かず、ぼーっとしている。
- ・ 頭をひどく痛がる。
- ・ 嘔吐やけいれんがある。
- ・ 打ったところにへこみがある。
- ・ 顔色が悪く元気がない。

頭を打ってから3日くらいの間

- ・ 嘔吐があった。
- ・ 言葉が不明瞭になった。
- ・ ぐったりしている。

2. やけどをした

問い合わせ・電話相談 (P2 参照)

かながわ小児救急ダイヤル
#8000 (毎日 18:00 ~ 22:00)

様子を見ても大丈夫な場合 (通常の診療時間内に受診しましょう)

- ・ やけどの範囲が小さく、赤くなっている、または水ぶくれができています。

応急手当

流水で冷やしましょう。(無理に服を脱がさない)

水ぶくれがあるときや痛いときはガーゼを当て受診しましょう。

救急外来を受診した方がよい場合

- ・ やけどの範囲が子どもの手のひらより大きい。
- ・ やけどが深く、皮膚がめくれている。
- ・ 水ぶくれがあり、機嫌が悪い。

3. 切り傷・刺し傷

問い合わせ・電話相談 (P2 参照)

かながわ小児救急ダイヤル
#8000 (毎日 18:00 ~ 22:00)

様子を見ても大丈夫な場合 (通常の診療時間内に受診しましょう)

- ・ 傷が小さく、出血が少量である場合。

応急手当

出血しているときは止血する。

(清潔なガーゼを当て傷口を圧迫し、止血する)

傷口を流水で洗う。

傷口が大きいときは包帯をして受診しましょう。

救急外来を受診した方がよい場合

- ・ 傷が大きく、出血が多い。
- ・ 傷口にとげやガラスなどが残っている。
- ・ 古いくぎなどでけがをしたとき。
(破傷風にかかってしまう可能性があります。)

4. 動物にかまれた

問い合わせ・電話相談（P2 参照）

かながわ小児救急ダイヤル
#8000（毎日 18:00～22:00）

様子を見ても大丈夫な場合（通常の診療時間内に受診しましょう）

- ・ ネコ・ネズミ・ハムスターにかまれた。

救急外来の受診が必要な場合

- ・ 犬にかまれた。
- ・ 動物にかまれた後、息苦しくなったり、ゼーゼーする。
- ・ かまれたところが大きく腫れてきた。（化膿している）

5. 指をはさんだ

問い合わせ・電話相談（P2 参照）

かながわ小児救急ダイヤル
#8000（毎日 18:00～22:00）

様子を見ても大丈夫な場合（通常の診療時間内に受診しましょう）

- ・ 痛がって泣いたが、指がうごき、すぐに泣きやんだ。
- ・ 赤くはれたが、徐々にはれがひいてきた。

応急手当

流水や氷水で冷やす。

冷シップ剤をはる。

救急外来の受診が必要な場合

- ・ いつまでも泣きやまず、はれて内出血がある時。
- ・ 痛がって指が曲げられない時。
- ・ 指を切断してしまった時。
- ・ 爪がはがれて出血している時。

6. 誤飲

(財)日本中毒情報センター

中毒 110 番・電話サービス中毒 110 番

大阪 072-727-2499 (365 日 24 時間)

つくば 0298-52-9999 (365 日 9 時～21 時)

誤飲は、飲んだものによって対応が異なるので注意しましょう。

表中に×のついているものは吐かせてはいけません。

次のものを誤飲した場合、救急車を呼びましょう。

飲んだもの	吐かせる
除草剤	
灰皿の水	
トイレ洗剤	×
殺虫剤	
花火	×

次のものを誤飲した場合、救急医療機関を受診しましょう。

飲んだもの	吐かせる
灯油	×
ボタン電池	×
ベンジン	×
ホウ酸団子	
除光液	×
タバコ	
硬貨	×
しょうのう(防虫剤)	×
大量の医薬品	
何を飲んだかわからない	×

急を要するものは飲んでいないようです。様子をみながら診療時間になるのを待ってお子さんを病院へつれて行くとよいでしょう。

飲んだもの	
化粧品	植物活力剤
線香	クレヨン
入浴剤	粘土
せっけん	保冷剤
シャンプー	水銀
芳香剤	シリカゲル
紙	プラスチック

対応に迷ったときには、中毒に関する相談窓口(P.2 参照)も利用しましょう。

子どもの事故防止

厚生労働省が発表している人口動態統計において、0歳を除いた1～19歳の子どもの死亡原因の第1位は「不慮の事故」となっております。この状況は1960年以降ほぼ変化はありません。何にでも興味を持ち、何でも自分でためしたいのが子どもの特性です。事故を起こさないよう、環境を作ってあげることが大事です。

	起こりやすい事故	事故防止のポイント
新生児 ～ 6か月	窒息	<ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんの周囲には、柔らかいぬいぐるみ、ひも、ビニールなどのものを置かない。 ・布団は固めのものを選ぶ。 ・うつぶせ寝はさせない。
	転落	<ul style="list-style-type: none"> ・抱いたまま転倒しないよう、安定した靴をはく。 ・ベッドの柵は必ず上げる。 ・ひとりでソファ、椅子などに寝かさない。
	やけど	<ul style="list-style-type: none"> ・風呂やシャワーは温度を確認する。 ・赤ちゃんのそばでは熱いものを扱わない。
7 ～ 12か月	誤飲・ 中毒・窒息	<ul style="list-style-type: none"> ・危険なものは赤ちゃんの手の届かないところへおく。 ・引き出しにはストッパーをかける。
	やけど	<ul style="list-style-type: none"> ・熱くなるものはすべて赤ちゃんの手の届かないところへおく。 ・ストーブに安全柵をつける。 ・食べ物・飲み物をテーブルの端に置かない。 ・テーブルクロスをしない（引っ張って、テーブルの上のものを落としてしまう）。
	転落・転倒	<ul style="list-style-type: none"> ・階段や段差のあるところには柵などを付け、赤ちゃんが入らないようにする。
	溺れる	<ul style="list-style-type: none"> ・お風呂のお湯は抜いておく。 ・浴室の戸は閉めておく。 ・入浴時・水遊び時は目を離さない。
1 ～ 4歳	転落・転倒	<ul style="list-style-type: none"> ・箱、家具など踏み台になるようなものを窓際やベランダに置かない。 ・ベランダの出入り口には鍵をかけ、子どもが出ないようにする。
	やけど	<ul style="list-style-type: none"> ・ストーブ・アイロン・ポット・鍋・ライターなどやけどの原因となるものは子どもの手の届かないところへおく。 ・ストーブに安全柵をつける。
	溺れる	<ul style="list-style-type: none"> ・お風呂のお湯は抜いておく。 ・水遊び時は目を離さない。
	誤飲・中毒・ 窒息	<ul style="list-style-type: none"> ・危険なものは子どもの手の届かないところへおく。 ・食品の入れ物に、食品以外のものを入れない（ペットボトルに洗剤などは×）。
	交通事故	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車の補助いすに乗せる時は自転車専用ヘルメットを着用させる。 ・手をつないで歩く。 ・子どもから目をはなさない。

最後に

救急医療機関（綾瀬休日診療所など）は休日や夜間に急なケガや病気をした時に対応するところです。便利な時間外診療ではありませんので、気軽に受診することは避けましょう。皆様のご協力をお願いします。

医療機関受診の最終判断は、必ず保護者の方が行ないましょう。
ここに書いてあることは、生後1か月から6歳くらいの乳幼児のお子さんを想定しています。



子どもの救急時の対応

発行日 平成21年3月

発行 綾瀬市保健医療センター